

第12報 胆振國穂別村福山附近の石灰石*

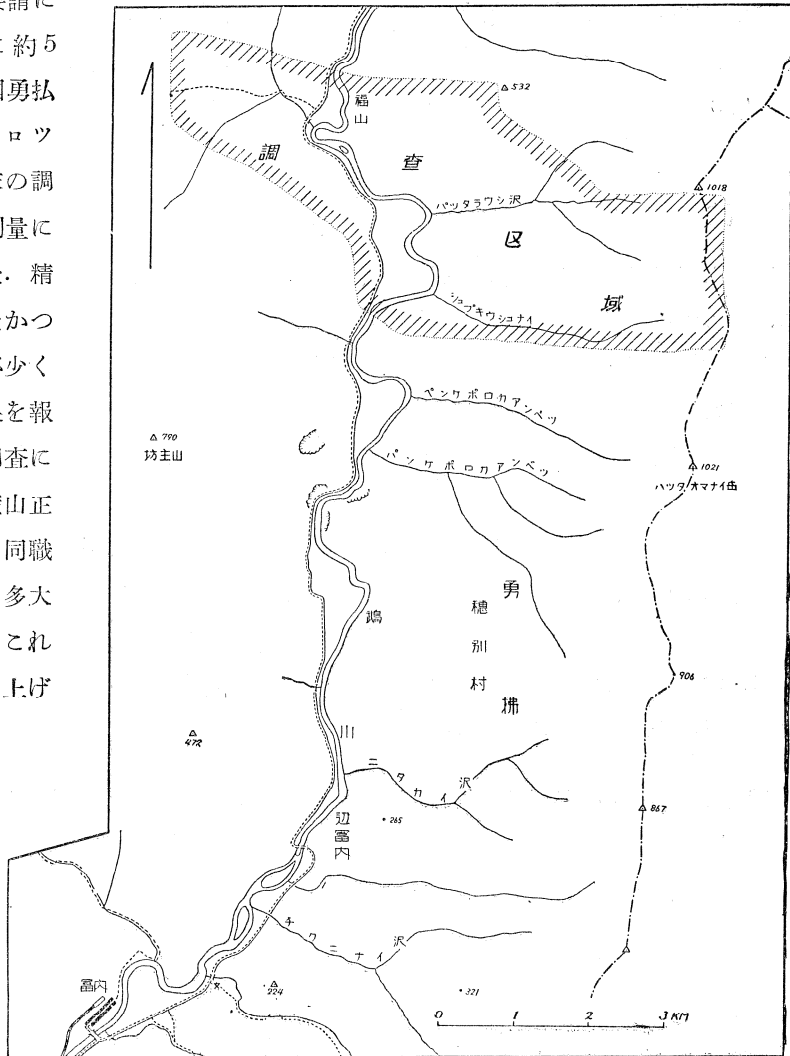
土居 繁 雄**

I 緒 言

筆者は、穂別村の要請により昭和26年6月に約5日間をもつて、胆振国勇払郡字福山(旧名オロロツプ)附近の石灰石鉱床の調査を行い、専ら簡易測量によつて鉱量を算定した。精密な地形測量を行わなかつたので、不明確な点が少くないが、一応その結果を報告する次第である。調査に際しては、穂別村長横山正明、同助役伊勢正勝、同職員宇野量一の諸氏から多大の便宜を与えられた。これらの人々に厚く御礼申上げる。

II 位置及び交通

鉱床賦存地域の中心部落は福山で、鉱床はオロロツプ沢、ハツトラウシ沢上流およびシユブキウシ



第1圖 調査地域圖

* 本調査は昭和25年12月上旬に、本所技師齋藤昌之と共に行つた豫察調査の資料を附加したものである。

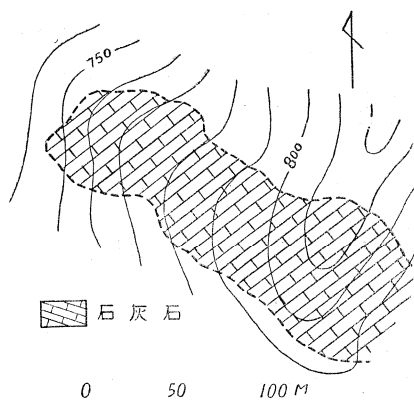
** 本所技師

ナイ沢上流にそれぞれ胚胎している。福山には富内線の終着駅富内から、八田鉱業八幡クローム鉱山を経て約13料で達する。この間は良好なトラック道路で、特に富内から八幡鉱山迄は鉱石運搬のトラックを頻繁に通じているので、さほど交通が不便とゆうほどではないが、現地はこのトラック道路から2料乃至6料離れており、しかもその間には搬出路が開さくされておらないので、実際には搬出する場合にはかなりの困難が伴なわれる。

III 地質及び鑛床

本地域は、白堊紀から第三紀末を通じて行われた造構運動によつて、極めて複雑な地質構造を呈していることは多くの人々によつて知られている。本地域を構成する地質を通覧すると、先白堊紀層と呼ばれている黒色粘板岩・砂岩・珪岩・輝緑凝灰岩よりなる沙流川層、粘板岩・砂岩の互層よりなるニセウ層と、これらを貫く蛇紋岩、第三系川端層および第四系段丘堆積物からなり、先白堊紀層ならびに川端層は後次の断層によつて寸断されて複雑に変位しており、その走向、傾斜は一様ではない。

石灰石鑛床は前記の沙流川層およびニセウ層に介在している。オロロツブ鑛体は沙流川層の輝緑凝灰岩中に、またシブキウシナイ鑛体およびパツトラウシ鑛体はニセウ層の砂岩中にそれぞれ胚胎しており、いずれの鑛体も不規則な塊状を呈していることが実測の結果より推察出来る。石灰石の岩質は沙流川層に胚胎しているものは灰色乃至暗灰色を呈しており、粘土質物または炭質物を含んでいる。また、ニセウ層に胚胎しているものは灰白色を呈しており、一般に硬質で叩けば角方状に破砕される。これらの石灰石はいずれも微晶質で、組織は不均質緻密なものである。



第2圖 シブキウシナイ鑛體

IV 鑛量

本地域に賦存する石灰石鑛床の可採鑛量はオロロツブ鑛体、85,000 吨、パツトラウシ鑛体 120,000 吨、シブキウシナイ鑛体 600,000 吨、合計 805,000 吨が推定される。次に各鑛体における算定基準を示す。

オロロツブ鑛体は、露頭延長 50 米、厚さ 30 米、最高最低露頭差 30 米が確認される。比重 2.6、採掘安全率 70% とすると、可採鑛量は $50 \times 30 \times 30 \times 0.7 = 85,000$ 吨で大きなものではない。

パツトラウシ鑛体は、露頭延長 80 米、厚さ 40 米、最高最低露頭差 20 米が確認される。したがつて可採鑛量は比重 2.6、採掘安全率 70% とすると $80 \times 40 \times 20 \times 0.7 = 120,000$ 吨であるが、本鑛体は露出が不良で不明なところが多い。したがつて今後精査することによつて鑛量の増加

が期待される。

シュプキウシナイ鉱体は、露頭延長 150 米，厚さ 50 米，最高最低露頭差 60 米が確認された。したがって可採鉱量は，比重 2.6，採掘安全率 70 % として算出すれば， $150 \times 50 \times 30 \times 0.7 = 600,000$ 吨となり，本地域の鉱体中最大のものである。

V 採石及び搬出条件

本地域の鉱体はいずれも採石条件が良好である。とくにオロロツプ鉱体は谷川の河床面から切立つた断崖を形成しているので，採石作業には有利と判断される。鉱石の搬出については，オロロツプ鉱体では福山部落まで約 2 軒の運搬用道路を開鑿すれば容易であるが，パツトラウシおよびシュプキウシナイの各鉱体は，トラック道路からかなり離れており，しかも鵜川の東部地域にあるので，長距離の運搬用道路の開鑿と，鵜川に架橋する必要がある。従つて現状から判断して，この両鉱体は鉱石の搬出とゆう点では極めて不利である。

なお福山は富内駅より約 13 軒の距離にあり，トラック道路が開鑿されていることは前記の通りであるが，この間には雨水のために屢々岩石が崩落して交通のとだえる個所が 2, 3 あるので，このようなことを併せ考えるならば一層その感が深い。

IV 結 言

以上，勇払郡穂別村福山を中心として賦存する石灰石鉱床の調査結果を報告した。この結果を次に要約すれば，(1) 鉱床は先白堊紀層を構成する沙流川層およびニセウ層中に胚胎しているものである。(2) 本調査による可採鉱量はオロロツプ鉱体 85,000 吨，パツトラウシ鉱体 120,000 吨，シュプキウシナイ鉱体 600,000 吨，合計 805,000 吨が推定される。(3) 品質は見掛では良好なものと判断されるが，化学分析を行つていないので，さらに検討を要する。(4) 採石条件は概ね良好であるが，鉱石の搬出および運搬は不便であつて，現況から判断すれば開発には少からず困難が伴うものと考えられる。